

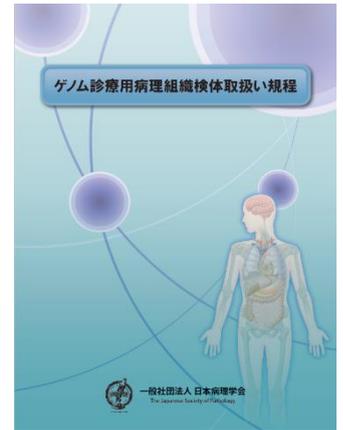
# 中央検査部だより

2019年9月17日 第70号

## ゲノム診療用病理検体 取扱い方法のポイント

病理検査室

近年、病理組織を用いた遺伝子検査が増加しています。それに伴い、病理組織検体にはゲノム診断に耐えうる一定水準以上の検体品質が求められています。高品質なホルマリン固定パラフィンブロック検体を作製するには、ホルマリン固定時間や固定液濃度も重要ですが、検体を採取してから固定するまでのプロセスも非常に大切です。今回は、平成30年3月に日本病理学会から発行された「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」に基づき、検体採取後にホルマリン固定をして病理検査室に提出されるまでの組織の適切な取扱い方法についてご紹介いたします。



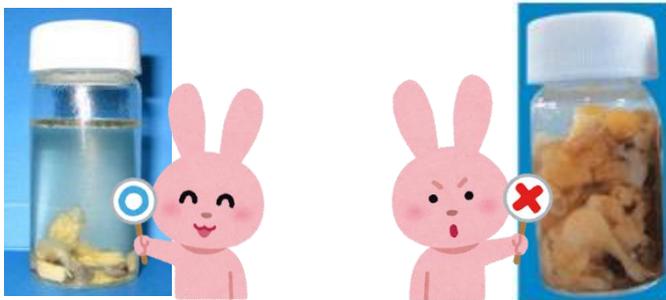
### 組織採取からホルマリン固定まで

- ✓ 手術により切除された組織は、**摘出後は速やかに冷蔵庫など4℃下で保管し、1時間以内、遅くとも3時間以内に固定を行う**ことが望ましい
- ✓ 手術により切除された組織においては、**摘出後30分以上室温で保持することは極力回避**する

採取組織の自己融解を阻止するため、採取後は速やかに固定液に浸漬する必要があります。乳癌のASCO/CAPのガイドラインでは、1時間以内の固定を推奨しています。

### ホルマリン固定液の量について

- ✓ ホルマリン固定に使用する固定液の容量は、**組織量に対し10倍量の固定液**を用いることが望ましい



固定液の量が少ないと、組織液で固定液が希釈され、十分な固定ができません。

高品質なホルマリン固定パラフィンブロック検体作製のため、ご協力よろしくお願いたします。ご不明な点があれば、病理検査室（内線509）までお問い合わせください。





## 輸血検査業務紹介



輸血検査室の業務は、血液型などの輸血関連検査や製剤の管理だけではなく、輸血療法委員会の運営など『院内の輸血に関することすべて』を担っています。

当院の輸血検査室は、日本輸血・細胞治療学会が認定している輸血機能評価認定(I&A 制度認定)を取得しています。また認定輸血検査技師の資格を取得するなど、より安全な輸血療法へ貢献できるよう取り組んでいます。不明な点などありましたら、気軽にお問い合わせください。

輸血検査室 (内線 502)

### 安全な輸血療法のためのお願い

- ・輸血同意書、血漿分画製剤(アルブミン製剤)同意書の取得
- ・**輸血する理由、効果判定をカルテに記載**
- ・輸血直前に患者ベッドサイドで認証

ご協力よろしく申し上げます

全自動輸血検査装置



## 情報伝達エラー防止について

今年度より、超音波検査レポートが確定されていない患者リストを依頼医に毎月配布させていただいています。早急にレポート確定操作をお願いいたします。なお、転勤等で現在在籍の無い医師の依頼分に関しては、担当科の長に配布させていただきます。確定操作方法は掲示板またはライブラリをご参照ください。ご不明な点は、生理機能検査室(内線 515)までご連絡ください。

生理機能検査室

診断結果が後日報告となる病理診断分野では、緊急性のある結果や重要な結果が確実に医師に伝わるような工夫が講じられていることが必要とされています。

病理診断科では、悪性や悪性疑いなどの重要症例は主治医にクジラメールで連絡しています。また、電子カルテで確実に結果参照されているかを病理システム上で確認することを今年度から始めました。病理診断結果閲覧者がシステムに記録されるので、診断から一定期間経過しても依頼医や主治医の結果閲覧が確認されない場合は、連絡させていただき、病理結果の伝達漏れ防止対策としています。

病理検査室

